

2020年度 一般入学試験 後期日程

国

語

(試験時間 60分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、30ページあります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 試験コード欄・座席番号欄
試験コード・座席番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
 - ② 氏名欄
氏名・フリガナを記入しなさい。
- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～12)に答えなさい。

眠ることは、食べることや息を吸うことと同じように、人間にとって如何^{いかん}ともしがたい生存の条件として当然視され、顧みられることが少なかつた。呼吸をするということが、風邪でキカンシ^(イ)を痛め、一つ一つの呼吸に困難を覚えるようになってはじめて意識化されるのと同じように、眠りも、何らかの不本意な出来事、あるいは体の不調によって妨害されないかぎり、意識にとつては存在しないに等しい活動であることが多い。

私たちにとって重要なのは、目覚めているときの出来事や、行動とその行動によって得られる成果、あるいはそうした出来事や行動によって誘引されるさまざまな思考だ。そんな私たちが眠りを気にするのは、眠りが浅かったり、十分に睡眠をとれなかつたり、あるいは逆に起きられずに寢坊をしてしまつたりして、眠りが生活に何らかの影響を与えるときに限られる。眠りは覚醒時の活動をよりよいものにするための手段にすぎず、眠りが問題なく機能しているかぎりは、覚醒した世界の影に身を潜めていることが多い。

【a】、何かの拍子に眠りが制御できなくなると、それまでの眠りの自明性は一挙に破壊され、いくら眠りをもとの鞆^{たもと}に収めようとしてもかなわなくなる。昨日まであれほど容易^{たやす}く、ほとんど意識されることのないものだったのに、突然、ありとあらゆる方策を尽くしても手の届かない、謎のものと化するのである。そして、眠れなければ眠れないほど、眠りの存在は意識化されるようになり、不眠者は狼狽^{ろうた}し、当惑する。往々にして眠りのなかでは、眠りは意識から抜け落ちてしまうのに対して、眠れない不眠者の意識のなかでは、眠りはその存在と威力を誇示するようになる。

眠りとはしたがって、人間の意識にとつて、まず一つの X に違いない。眠りを意識することは難しいのだ。だが、だからといって、眠りと意識は単純に対立するわけではない。私たちは意識を一つのキンシツ^(ロ)で絶対的な覚醒のようなものとして思い描きがちだが、はたしてそうだろうか。意識とは【b】、きわめて部分的で恣意的な知覚能力のことではないだろうか。何かを意識しているとき、私たちは、それ以外の事柄にまるで気が付いていなかったりする。意識の外にあるものに不意打ちを

食らい、思わずぎよつとさせられた、という経験を誰ももっているだろう。

【c】、緊張しながら面接を受けに行き、そこで用意してきたことをひとしきり捲まくした。だが、面接室を間違っていた。ここまでひどい間違いはそう起こらないだろうが、大なり小なり、これに類似した経験をした人は多いに違いない。何か集中し、それを意識するあまり、他のこと（この場合は正しい面接室）が意識できなくなってしまうのだ。こうしたとき私たちはひどく驚くが、それは意識を過信し、それを一つの全体だと見做みなしているからだ。けれども実際には、意識は気紛きまぐれで、断片的で、偏狭な能力でしかないのである。

私が眠りにキョウミをもつのは、まずこの意識との関わりにおいてである。眠りに気付くのは不眠者であり、不眠者とは、眠りが自由にならなくなった者のことだ。自分のものであったはずの眠りが、自分の意志、そして意識から抜け出ていく。そのとき、眠りはその不気味な力を見せつける。眠りにはや個人の生活の日の当たらない部分に追いやられた時間などではなく、生活全体を包む時間、これまで私だと思っていたものを超えて広がる存在の可能性として、まったく新たな意味合いをもってくる。二十世紀とはまさに、意識の背後に私たちを超える領域が控えているという事実を、精神分析という新しい学問とともに探究し始めた時代と言えるだろう。意識とは Y のようなものであり、その背後には前意識（注）が、そしてさらに深いところでは無意識という領域が、私たちの意識の範囲をはるかに超えて控えているということを、フロイト（注）ははじめて指摘した。彼はこの無意識という闇の領域を浮かび上がらせるために、夢という現象を引き合いに出した。

夢は現実ではない。にもかかわらず、現実には大きな影響を及ぼすこともある。夢は独自の幻覚性をもっており、現実よりもリアルに感じられることさえある。またそれは無意識を形象化することによって、私たちの意識が把握する現実よりもさらに広範な現実を示唆する力をもっている。

夢と現実の関係は、そのままフィクションと現実の関係になぞらえることができる。フィクションとはそもそも「振りをする」と、「真似ること」である。「真似る」からには、真似るべき対象が存在する。それが現実だった。そしてフィクションとはその現実を模倣するものであった。スタンダーの有名な言葉にあるように、小説はフィクションは人生を映し出す鏡でなくて

はならなかったのだ。逆に言えば、フィクションとは鏡像にすぎず、現実の模造品のようなものでしかなかった。

ところが二十世紀は、このフィクションという鏡の姿に魅せられてしまった時代、^(C)フィクションに対する現実の優位性が崩壊してしまつた時代なのだ。フィクションと現実の間で起こつたこの逆転現象は、二十世紀を特徴付ける事態といえる。それはブルーストとカフカとともに始まり、谷崎という日本の作家において〈現〉^(注5)という特別な形で現れている。

今日ではわずかに「夢うつつ」という表現が残るばかりとなつているが、〈現〉^(注6)とは、日本古来の概念であり、「うたた寝」や「うとうとする」という言葉にその残響が聞き取れる。同時に、「写る」／「映る」／「移る」の諸相とも深く関係する言葉で、元来、空であるへうつわにものが充ちている様を表していた。つまり古代日本のシャーマニズムにおいては、「映る」ことと「眠ること」は必ずしも無関係ではなかつたのだ。この「うつつ」という日本の古語は、はからずも、ブルーストやカフカや谷崎の幼少時代に氾濫し始めた新しいメディア、写真（「写る」）と映画（「映る」）と、眠り（「うつつ」）の問題が無縁ではないことを暗示している。

ベンヤミンが一九三五〜三六年にかけて『複製技術時代における芸術作品』のなかでいち早く着目したように、^(D)写真と映画という複製技術のもたらした影響は、何よりも私たちの知覚のあり方そのものに及んだ。もっとも大きな影響の一つが「一回限り性」にまつわる私たちの知覚である。

複製技術がマス・プロダクション化する以前では、人間の作り出すものには「一回限り性」という性質が備わつていた。ミケランジェロの絵画の前で人々がカンタンする^(注7)のは、究極的にはそれが、ある特定の瞬間に、ある特定の人間によつて、そこに描かれた、というその作品の真正性に打たれるからである。その感動はミケランジェロの模写では得られないはずであり、作品の「一回限り性」がその作品を唯一無二のものに高めている。

しかし、原理的にいくらでも複製可能な写真や映画においては、本物と偽物という感覚はもはや問題にならない。とりわけ、映画の表している出来事はいくらでも巻き戻すことができ、何回でも映写できる。また映画を作るにあたって、モンタージュによつて映像をいくらでも変えられる。つまり映画とは、それまでの伝統的な「一回限り性」という知覚の対極に位置する技術

であり、映画技術では、何もかもが取り返し可能なのだ。映画のもたらす快樂の一部は、現実の取り返しのつかなさ忘れさせる点に由来する。現実が取り返しがつかなくなる地点とは死である。映画は人生が一度限りのものであるということを、つまりは生が死によって決定づけられているということを忘れさせてくれるのである。

映画で死がヒンバン(ホ)に演出されるのは、まさにそのためだ。ホラー映画やサスペンス映画が最も人気があるのは、死の恐怖を感じながら、これはフィクションにすぎず、いくらでも巻き戻し可能な映像でしかないという思いが、私たちが死の頸木イから解放されたような気にさせるからだろう。言い換えれば、多くの映画が、人間はいずれは死ぬ生き物であるという現実感を薄めるのに役立つのである。

二〇〇一年九月十一日の映像があれほど衝撃的であったのは、それが、私たちは不死身ではないという、取り返しのつかない事実を突きつけたからでもある。それは自明の事実にはすぎないのだが、映画という複製技術に飼い慣らされた私たちは、知らず知らずのうちに現実の「一回限り性」の原則に打ち勝った気分になつていたのではないか。二機の飛行機が衝突したこと、無数の人間がビルのなかにいるということ、そして、それが取り返しのつかない現実であると認識したとき、私たちは体の底から恐怖した。フィクション映画との混乱が、事態の取り返しのつかなさを実際させたのだ。

人間に、現実の「一回限り性」を教えるものは死である。その意味で、死は人間にとって究極の現実であると言えるだろう。しかしいくらでも巻き戻し可能なフィクション映画に甘やかされた私たちは、この明白な事実がなかなか認められなくなつていく。実際、このフィクションによる現実の侵食は、私たちの現実を想像もできないほど豊かなものにしていくだろう。けれどもその一方で、私たちはおそらく、「幼児化」しているのである。

成人が幼児化することを、精神分析は退行現象と呼ぶ。そしてフロイトは眠りを退行現象と見做していた。眠るとき人は胎児だったときの条件に近づこうとする。成人として身につけている付属品（眼鏡や鬘かつら、義歯、服など）を外し、部屋を暗くし、できるだけうるさくない環境を作り出して床につく。床のなかで、胎児と同じ姿勢をとる人もいるだろう。そしていつしか眠りに落ちていくことになるが、眠りのなかで人は胎児のようにしか動くことができない。やがて自我の規制が弱まり、自他の区別の

つかなかつた幼児時代にきわめて近い幻覚、つまりは夢を見るようになる。

眠りに守られた夢という現象を、フロイトははっきりと幻覚の一種と見做している。他方、幻覚とはフィクションと現実を混同することである。二十世紀が眠りに対して示した関心は、写真や映画といった複製技術によつて導き出された退行現象（現実とフィクションの境界線が曖昧になる現象）と無関係ではないだろう。

（根本美作子の文章による。ただし、一部変更した。）

（注）

- 1 前意識 … 意識と無意識との中間にあり、とつさに意識化することはできないが、意識化すること自体は比較的容易に可能な領域のこと。
- 2 フロイト … ジークムント・フロイト。オーストリアの精神医学者（一八五六―一九三九）。精神分析を学問体系として創始したことも知られる。
- 3 スタンダール … フランスの小説家（一七八三―一八四二）。
- 4 プルースト … マルセル・プルースト。フランスの小説家（一八七二―一九二二）。代表作『失われた時を求めて』では、特に物語の前半部で、主人公の「私」の眠りをめぐる煩悶のエピソードが示される。
- 5 カフカ … フランツ・カフカ。現在のチェコ生まれの小説家（一八八三―一九二四）。
- 6 シャーマニズム … 原始宗教の様式の一つ。シャーマンと呼ばれる宗教的職能者を仲立ちとして、霊的存在との交渉を行う。
- 7 ベンヤミン … ヴァルター・ベンヤミン。ドイツの文芸批評家・哲学者（一八九二―一九四〇）。著書『複製技術時代における芸術作品』では、写真や映画といった新時代のメディアの特性を、「アウラ」という概念を核にして論じた。
- 8 二〇〇一年九月十一日の映像 … この日起こった「アメリカ同時多発テロ事件」のうち、ハイジャックされた二機の旅客機がニューヨーク・ワールドトレードセンターに激突し、爆発炎上および崩壊した際の記録映像のこと。

問1 空欄〔 a 〕 〔 c 〕に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は

1

3

a

1

① だから

② つまり

③ こうして

④ とりわけ

⑤ だが

b

2

① むしろ

② しかし

③ さらに

④ それゆえ

⑤ ところで

c

3

① ただ

② しかしながら

③ たとえば

④ なぜなら

⑤ はたして

問2 破線部ア「恣意的な」・イ「頸木」の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は ・ 。

ア 「恣意的な」

- ① 万能である
- ② 即時性がある
- ③ 制限がある
- ④ 表裏一体である
- ⑤ 勝手きままである

イ 「頸木」

- ① 相手を苦しめるもの
- ② 自由を束縛するもの
- ③ ないがしろにはできないもの
- ④ すべてをその時点で終わらせるもの
- ⑤ 何かを証明するもの

問3

波線部(A)「眠りが問題なく機能しているかぎりには、覚醒した世界の影に身を潜めていることが多い」とあるが、なぜそのように言えるのか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

6

。

- ① 眠るといふ行為は、人間が人間らしくあるための必要不可欠な条件であり、あまりに重要な行為であるために意識されることがないから。
- ② 眠る行為を意識すると眠りは浅くなってしまうため、人間は円滑にかつ充分に眠るためにあえて眠りを意識しないようにしているから。
- ③ 眠りは人間の無意識と密接な関係にあり、無意識の領域が人間に働きかけることで覚醒時は眠りが意識にのぼらないようになっているから。
- ④ 眠っている最中は眠りそのものが意識されることはなく、また覚醒時の行動や思考こそが人間の活動にとっては重要だと捉えられがちだから。
- ⑤ 人間が思考や行動を働かせようとする時には眠る行為や眠気は邪魔になるため、あえて意識して眠りのことを考えないようにするものだから。

問 4

空欄

X

に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

7

- ⑤ 逆説
- ④ 外敵
- ③ 福音
- ② 内省
- ① 知己

問5

波線部(B)「意識は気紛れで、断片的で、偏狭な能力でしかない」とあるが、筆者は「意識」についてこう述べることを通じて、どのようなことを言おうとしているのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

8

。

- ① 意識の能力の限界を認識することで、意識の外のものに不意打ちを食らっても、驚かないでいられるようになるということ。
- ② 何かに意識を集中させることで他の事項が意識できなくなるのは、人間にとって当然の作用であり、恥じることはないということ。
- ③ 意識を絶対視するのは誤った認識であり、私たちは、意識の外のものや眠りという行為にも目を向けることが必要だということ。
- ④ 眠りと意識とは対立概念であり、眠りとは何かを考えるためには、まず意識がどのような能力であるかを知る必要があるということ。
- ⑤ 眠りと意識の双方の限界を正しく認識しておくことで、眠りを制御し、その全体を把握する能力を身につけることができるということ。

問 6

空欄

Y

に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

9

- ① 他山の石
- ② 氷山の一角
- ③ 寝耳に水
- ④ 対岸の火事
- ⑤ 招かれざる客

問7 波線部C「フィクションに対する現実の優位性が崩壊してしまった」とあるが、これはどういうことか。その説明として

最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

10。

- ① 夢が時に現実以上にリアルであるのと同様に、現実のコピー程度のもたとされていたフィクションが、主体的な意味を持つようになったということ。
- ② 夢が無意識を形象化して広範な現実を示唆したように、フィクションも人間の集合的無意識を反映し、現実には大きな影響を与えたということ。
- ③ 夢が幻覚性を持つているように、フィクションも現実をただ正確に写し取るのではなく、時に目に見えない幻覚を表現するものだということ。
- ④ 夢が現実を反映したものであるように、フィクションも現実をありありと映し出すことによって、大きな価値を持ち始めたということ。
- ⑤ 夢が現実には大きな影響を及ぼすように、フィクションが現実世界を侵食し、人々は現実に生きながら自身を物語中のキャラクターであると捉え始めたということ。

問 8

波線部(D)「写真と映画という複製技術のもたらした影響は、何よりも私たちの知覚のあり方そのものに及んだ」とあるが、これについて説明した次の文章の空欄 I Ⅰ Ⅲ に入れるのに最も適切なものを、後の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は

11 Ⅰ Ⅲ 13。

ベンヤミンの議論に抛りつつ筆者が述べるところによれば、複製技術が広がる以前の芸術作品は、I Ⅰ を備えていた。ところが、写真や映画というメディアの持つ II Ⅱ がそうした芸術のあり方を変容させた。このようなメディアの存在は、III Ⅲ を私たちに与えたと考えられる。

I

11

- ① 他の作品との代替ができない性質
- ② 一回の筆運びで描いたという貴重さ
- ③ 作家の天才的な感性
- ④ 模写できないほどのリアリティ
- ⑤ 真実を表しているという信用性

II

12

- ① 正確な写実性
- ② 技術の卓越性
- ③ 自由な可変性
- ④ 反復の可能性
- ⑤ 映像の有用性

- ① 死のつらさから目をそむける自由
- ② 死の描写の生々しさを和らげる効果
- ③ 死の不条理に対する理解
- ④ 人間はいずれ死ぬという常識
- ⑤ 人生の有限性から解放される感覚

問9 波線部(E)「フィクション映画との混乱が、事態の取り返しのつかなさを実際させた」とあるが、これはどういうことか。

その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 14。

- ① テロリズムの映像を映画のワンシーンと混同したために、死を軽いものと感じてしまった事実の人々が思い当たり、後悔するようになったということ。
- ② フィクションのようなテロリズムの映像が何度も放映されることで、それを見た人々が死を何度も繰り返し経験するよう印象を得たということ。
- ③ 一見フィクションのようなテロリズムの映像が、かえって死の現実感を突きつけ、死の不可避性を一層印象づけたということ。
- ④ 映画と現実を混同した人々が現実のテロリズムを実感を持って捉えられなくなり、そのことで人々がより一層傷ついたということ。
- ⑤ 一度は映画だと思ったテロリズムの映像を現実の出来事と認識し直す過程で、人々が死について改めて深く考えるようになったということ。

問10

波線部(F)「写真や映画といった複製技術によって導き出された退行現象」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 15。

- ① 写真や映画の映像は、現実がその場限りであることを忘れさせるとともに、現実とフィクションの区分をぼやけさせ、私たちが夢の中にいるような状態に導くということ。
- ② 写真や映画は幼児期の眠りの中にあるような状態に私たちを導き、現実が起こった出来事を夢の中で起こったものだと勘違いさせるということ。
- ③ 写真や映画は人生が繰り返し可能であることを印象づけ、厳しい現実から私たちの目をそむけさせ、幼児のように安心に包まれた状態に導くということ。
- ④ 写真や映画が繰り返し現像ないし再生可能であることは、私たちが死ぬことなく生き続けられるという印象を与え、死の恐怖から私たちを解放するということ。
- ⑤ 写真や映画は私たちに幼児期の記憶を呼び起こし、現実とフィクションとの境界が曖昧だった頃と同じ心の状態をもたらすということ。

問11 二重傍線部(イ)～(ホ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答

番号は 16 ～ 20。

(イ) キカンシ

16

- ① シセイの人々の暮らし
- ② 丁々ハツシの掛け合い
- ③ シヨウ末節にこだわる
- ④ 精神的シチュウとなる存在
- ⑤ イッシ乱れぬ行進

(ロ) キンシツ

17

- ① セイキン手当を受け取る
- ② キンシンの期間が明ける
- ③ キンコツ隆々の体格
- ④ 白いズキンをかぶる
- ⑤ キンイツの運賃を採用する

(ハ) キョウミ

18

- ① 歯並びをキョウセイする
- ② ソツキョウ演奏を鑑賞する
- ③ 特権をキョウジュする
- ④ 天気のカイキョウを報じる
- ⑤ 当面の金策にキョウホンする

(ニ) カンタン

19

- ① 工事の取りやめをタンガンする
- ② トタンの苦しみを味わう
- ③ タンリヨが失敗を招く
- ④ フタンが重くのしかかる
- ⑤ ドタンバで危機を切り抜ける

(ホ) ヒンパン

20

- ① 船が海をハンソウする
- ② 希望者に冊子をハンブする
- ③ 駅前にハンカ街が広がる
- ④ 商品を店舗からハンシュツする
- ⑤ コハンに別荘を建てる

問12 本文に登場する「谷崎」とは、小説家の谷崎潤一郎のことである。「谷崎」の作品として適切ではないものを、次の①～

⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 21。

- ① 『母を恋ふる記』
- ② 『痴人の愛』
- ③ 『蓼喰ふ虫』
- ④ 『生まれ出づる悩み』
- ⑤ 『細雪』

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えなさい。

ポカリスエットが海外に進出し始めた頃の苦労話である。インドネシアでは当初、X 売れなかったという。スポーツの後や風呂上がり、二日酔いの時などに飲もう。イ そんな宣伝が通用しなかったと川端基夫著『消費大陸アジア』にある。

熱帯の気候では運動して汗を流そうと思わないし、湯につかる Y もない。飲酒が禁じられているイスラム教徒が人口の大部分を占めている。方針を変えて「断食の後の渇きに」と売り込んだことで、ロ 受け入れられていった。

食べ物も飲み物も暮らし方との相性がある。ア こちらは現代の Y に合わなくなったか。森永製菓の「チョコフレーク」の製造が、来年夏までに終了することになった。販売が不振になった理由は、スマホだという。

チョコで手がべとについてスマホを操作しにくいのが響いたと、森永は説明する。指をなめなめという味わい方は、もう流行らないのか。周りの若い人に聞くと、ポテトチップスを割り箸で食べることもあるそうだ。

1960年代に生まれたチョコフレークは、テレビを見ながら菓子をつまむ「ながら族」を狙った商品だった。目だけでなく ニ 指先も常に忙しい現代のながら族には、受け入れられなかったか。

A 思えばスマホにより退場を迫られるものは少なくない。腕時計をする人が減った。地図を持ち歩かなくなり、ホ ついでに道も覚えなくなった。スマホが視野に入るだけで集中力が落ちるといふ研究もある。ものを考える力まで、はじき出されないといいが。

（『朝日新聞』二〇一八年九月三〇日「天声人語」による）

問1 空欄 に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 。

- ① はたして
- ② さつぱり
- ③ 決して
- ④ とりわけ
- ⑤ よもや

問 2

空欄

Y

に共通して入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

23

- ① 習性
- ② 悪習
- ③ 規則
- ④ 習慣
- ⑤ 空気

問3 破線部ア「相性」の類義語として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

- ① 類似性
- ② 相対性
- ③ 安定性
- ④ 互換性
- ⑤ 親和性

24

問4 波線部(A)「思えばスマホにより退場を迫られるものは少なくない」とあるが、本文から読み取れるその理由として最も適

切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 25。

- ① チョコフレークは、ポテトチップスとは違い、割り箸でつまむことが難しいから。
- ② ポカリスエットのような巧みな宣伝の切り替えができない場合、淘汰たうたされてしまうから。
- ③ 森永製菓をはじめとする多くの企業が、スマホの流行に適応することができなかったから。
- ④ 腕時計など、スマホを操作する上で邪魔になるものは、若者が身に付けなくなつたから。
- ⑤ 時計や地図といった、スマホで機能が代替できる品を人々が持ち歩かなくなつたから。

問5

本文の主旨として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

26

- ① 多くの人がスマホを持つようになった結果、生活スタイルが変化し、これまで人気があった食べ物や飲み物が売れなくなってきた。
- ② テレビを見ながら何かを食べたり、外出時に腕時計を付けなかったりするなど、マナーについての考え方もスマホの登場により変化しているようだ。
- ③ 商品に求められる要素は生活様式に即して変わるものだが、スマホへの依存が強まる中、物だけでなく人の思考まで駆逐されはしないかと懸念される。
- ④ スマホは、機能面だけに注目すれば他の多くのものを代替することが可能となるが、人間の「ものを考える力」自体に取って代わることは難しい。
- ⑤ さまざまな歴史や文化をともなった多様な製品が、スマホの普及がもたらす画一性によって駆逐されていくことをさびしく感じる。

問 6 二重傍線部(イ)～(ホ)の品詞名を、後の①～⑧の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は 27 ～ 31。

(イ) 二日酔いの時などに飲もう 27

(ロ) 合わなくなつたか 28

(ハ) テレビを見ながら 29

(ニ) 目だけでなく指先も常に忙しい 30

(ホ) ついでに道も覚えなくなった 31

- | | | | |
|----|-----|-----|-----|
| ① | ② | ③ | ④ |
| 名詞 | 動詞 | 形容詞 | 連体詞 |
| ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| 副詞 | 接続詞 | 助詞 | 助動詞 |

2020年度一般入学試験後期日程【国語】

『朝日新聞』2018年9月30日「天声人語」

承諾書番号 20-2043

※上記記事に関して朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。